

# 向田邦子 没後40年

## ー 日常を見つめるまなざしー

1981年8月、向田邦子は取材旅行中、  
台湾の航空機墜落事故にて突然逝去、51歳でした。  
今もみずみずしさを失わない珠玉のエッセイ、小説。  
そして、人としての魅力。

「出かけることが少なくなった」  
「家族との時間が増えた」  
そんな声が多く聞かれたこの1年。  
あなたは何を思い、過ごしていましたか？

改めて今、向田邦子と再会し、  
家族や身近な人たち、  
日々の出来事を見つめ直してみませんか。

6月5・12日・19日  
7月10・17日(全5回)  
いずれも土曜日14:00~16:00

- 第1回 “森繁学校”の三人
- 第2回 向田エッセイと“昭和”の記憶
- 第3回 『父の詫び状』の表現
- 第4回 ジェンダー論の中の向田邦子 -小説を中心に-
- 第5回 向田邦子の人と作品

※詳しい講座内容と講師、読んでおくべき本は  
裏面をご確認ください。

- 会場 : 大和市文化創造拠点シリウス 6階  
生涯学習センター 601講習室
- 対象 : 大和市内在住・在勤・在学の方 ※ 市外の方も定員に空きがある場合、ご参加できます
- 定員 : 50名(先着)
- 参加費 : 2,000円(全5回分) 学生の方は半額(※学生証をお持ちください)  
※初回にお支払いください。返金できません。
- 持ち物 : 筆記用具、読んでおくべき本(裏面参照)は持参が望ましい
- 申込 : **5/9(日) 10時~受付開始**  
お電話または 6 階生涯学習センター窓口へ

お申込・お問合せ **046-261-0491**

~大和市生涯学習センターからのお知らせ~  
メールマガジンを発行しています。  
QRコードの申込フォームから是非ご登録ください。



アクセス: 小田急江ノ島線、相鉄本線 大和駅から徒歩3分

※ 天候や交通機関の運行状況及びその他不可抗力により、開催が中止となる  
場合がございます。  
※ 駐車場の数に限りがありますので 公共交通機関でご来場ください。

## 向田邦子 没後40年 一日常を見つめるまなざしー

6月5・12・19日 7月10・17日 (全5回)

いずれも土曜日14:00~16:00

### 第1回 6月5日

#### “森繁学校”の三人



**脚本家・文芸評論家  
小林 竜雄 氏**  
(こばやし たつお)

映画に百恵・友和の「ホワイト・ラブ」、桃井かおりの「もう頬づえはつかない」、テレビドラマは三浦友和の「オトコの居場所」など多数。  
他、向田邦子の評論も手掛ける。

向田邦子を久世光彦と樹木希林とのかかわりから考察してみたいと思っています。  
この三人は昭和四十年の森繁久彌主演のドラマ「七人の孫」で出会いました。向田は脚本、久世は演出家、希林はお手伝い役でした。向田達は森繁によってホームドラマの面白さと「笑いのセンス」を学びました。まさに「森繁学校」でした。その成果は後にこのトリオがかかわった「寺内貫太郎一家」に結実していきます。向田たちにとっての絶頂期でした。その後、向田、久世、希林は独自の道を歩みます。その「人生のドラマ」を紹介したいと思います。  
【参考図書】小林竜雄著『向田邦子・最後の炎』『向田邦子・恋のすべて』(ともに中公文庫)

### 第2回 6月12日

#### 向田エッセイと“昭和”の記憶



**共立女子大学教授  
深津 謙一郎 氏**  
(ふかつ けんいちろう)

共立女子大学文芸学部教授。  
専門は日本近代文学、とくに戦後文学。

向田邦子は昭和の名エッセイストとして知られています。  
とりわけ、彼女が描く家族(とくに父親)像は、“古き良き昭和”を写し出したものとして評判が高いのですが、その理由は何でしょうか。  
そこには、“記憶を読む職人”とも評される彼女の語り(騙り)が大きく関わっています。  
本講演では、『父の詫び状』(文春文庫)に収められた「昔カレー」と「ごはん」を材料に、向田エッセイの本質に迫ります。  
【受講に当たって読んでおくべき本】『父の詫び状』(文春文庫)

### 第3回 6月19日

#### 『父の詫び状』の表現



**中央学院大学教授  
水藤 新子 氏**  
(すいとう しんこ)

中央学院大学商学部教授。  
専門は日本語の文体論・表現論。  
主たる研究対象は幸田文。  
他に広告コピー、怪談、調理レシピのオノマトペ(擬音語・擬態語)など。

ドラマのシナリオや小説はフィクションで、登場人物は実在しないし、書き手とは別個の存在です。  
片や随筆には、つくりごとではない書き手自身の生活や経験が開陳されます。シナリオや小説に較べれば、ことばひとつ取っても書き手の“素”が現れやすいと見做せるでしょう。  
今回は『父の詫び状』をとりあげ、表現上の特徴——“書きぐせ”のあれこれを眺めることを通して、作品の魅力、そして書き手自身の魅力を解き明かしていきます。  
【受講に当たって読んでおくべき本】『父の詫び状』(文春文庫)

### 第4回 7月10日

#### ジェンダー論の中の向田邦子 -小説を中心に-



**実践女子大学名誉教授  
栗原 敦 氏**  
(くりはら あつし)

立正女子大学(現、文教大学)・金沢大学・実践女子大学教員を経て、現在、実践女子大学名誉教授。

先日亡くなられた鴨下信一さん(テレビプロデューサー・演出家)は、向田さんの作品評について、「日本の家庭、日本の家族を書いた」ということはともかく、「最近はこの『美しく、温かく、なつかしい日本の家庭、家族を書いた』とどうしてかなってしまっている」らしいと指摘して、彼女の作品が「本当には読まれていないらしい」という心配を残しておられました。その小説作品を例に、鴨下さんの問いを巡って、考え深めてみることにしましょう。  
【受講に当たって読んでおくべき本】向田さんの短篇小説は『思い出トランプ』『男どき女どき』(ともに新潮文庫)でほぼ全てといっていいでしょう。女性視点の作品の中から二三を拾って見るつもりです。

### 第5回 7月17日

#### 向田邦子の人と作品



**向田邦子研究会代表  
半沢 幹一 氏**  
(はんざわ かんいち)

共立女子大学文芸学部教授。  
専門は日本語表現学。  
おもな著書に、『向田邦子の比喩トランプ』『向田邦子の思い出トランプ』『向田邦子の末尾文トランプ』(いずれも新典社新書)。

向田邦子の人生において、いつ、どのようにして、どのような作品が生み出されたかについてお話しします。  
とはいえ、人生即作品というわけではありません。作品は主として、『父の詫び状』(文春文庫)というエッセイ集と『思い出トランプ』(新潮文庫)という短編小説集を取り上げ、彼女の幼少期から晩年までの関わりを見てみます。そのうえで、彼女の文章の持ち味や魅力などにも触れる予定です。お話は、作品を読んでいなくても理解できるような内容にするつもりですが、読んでいればさらに理解が深まると思います。  
【受講に当たって読んでおくべき本】『父の詫び状』(文春文庫)『思い出トランプ』(新潮文庫)